

令和6年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

北城小学校

1. 本校の教育目標

充実した学校生活を通し、児童の個性と創造性を伸ばし、知・徳・体の調和がとれた人間形成を図るとともに「生きる力」を育み、社会の変化に主体的に対応できる活力ある人間を育成する。

<教育目標>

- | | |
|------------------|---------|
| ○ 健康でねばりづよくがんばる子 | (健康) |
| ○ すすんで勉強する子 | (学習) |
| ○ よく働く子 | (勤労と責任) |
| ○ 仲よく助け合う子 | (協力) |

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたせたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、特別支援学級

(4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児童	・やり方や持ち方など基本的なことを最初から教えてくれた。 ・お手本を書いてもらったからとめ、はらい、などが細かいところまで分かりました。 ・書道科の先生がお手本を書いてくれたり、硬筆も習字みたいにすればいいと教えてくれたおかげで硬筆や毛筆がうまくなった。 ・赤色の墨で直してくれるときに「ここをこうしたらいいよ」と教えてくれて、次回はそこに気をつけようと思うようになった。 ・ひらがなはうまくかけているけど漢字がまだまだだからもっと漢字を上手く書くコツを教えてほしい。
教員	・低学年のうちから児童が筆や器具の扱いを学べたことで、楽しみながら習字に慣れることができている。 ・書道科の先生がとても丁寧な指導してくださるので、児童は楽しく取り組んでいる。 ・より専門的な指導が受けられる。いつも以上に児童が集中して取り組んでいる。「今日は〇〇先生の日だ」といつもと違う授業を楽しみにしている様子や、目の前で朱を入れていただくときに興味津々な様子が見られる。 ・新年の目標を書くとき、一人ひとりが書きたい字の手本を書いてくださり、有難かった。 ・特支学級では書きたいテーマのお手本を個々にそれぞれ書いてくださり、大変助かった。
保護者	・教え方がわかりやすくて書道の時間が楽しいようです。 ・授業で書道を学ぶことができるので、字の書き方や書くことへ興味を持ってもらえると感じます。 ・専門的なアドバイスをしてくれて、さらに上手に書けるようになった。 ・書くのが難しい字についても細かく指導してくれるところが良い。 ・書道教室に通っていないなくても、講師の先生に見てもらえることは良いと思う。 ・小学校 1 年生から水習字で毛筆の練習をできて、子供もとても楽しみにしています。2 年生で初めて墨汁を使って、とても楽しかったと家庭でも話してくれました。

(3) 学校関係者評価

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・書道科講師を市が派遣してくれるのは大変ありがたい。今後も続けていただきたい。・外部講師の指導時間や教師との打合せ時間がさらに確保できるとよい。 |
|---|

(4) 課題

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・児童、保護者の「書道科講師にもっと入ってほしい」という声は多い。時間数については全体の時間数や他の教科・活動とのバランスもあるため、状況を見定め、市全体で検討しながら調整していけるとよい。・さらなる個へのアドバイスや、普段の授業とは違う内容を求める声もあった。指導内容に関しては、担任と書道科講師が打ち合わせをする時間を確保するのが難しい状態である。・低学年の授業は水書のみであったが、書道科講師の指導のもと、2 年生の最後の 2 時間は墨の作品にも挑戦し、作品を残すことができた。 |
|--|